

# 農業、食

## 思い語る

(下)

佐々木 紙さんはBSE

(牛海綿状脳症)問題でアメリカの現地調査や国会で質問をされてきましたね。

紙 政府は昨年十二月、国民の反対を無視して米国産牛肉の輸入を再開しましたが、BSE汚染の恐れがある危険部位の背骨の混入で輸入がストップしました。アメリカは背骨混入を「特異ケース」と強弁し、輸入再開の圧力をかけています。情けないことに、政府は今月中にも輸入再開の措置を取り、小泉首相の訪米土産にしようとしています

す。

### BSE根絶には

佐々木 五年前に日本で

初めてBSEが発生したとき、牛の全頭検査で事態を収めました。その全頭検査を支えたのが食肉検査場や家畜衛生保健所の職員たちでした。真夏でも手袋をして、完全装備の過酷な作業ですが、彼らは「全頭検査でBSEを根絶したい」といっていました。感銘を受けました。アメリカは「全頭検査は科学的根拠がない」と攻撃していますが、とんで

### 食料主権

参院議員 紙智子さん 農民連会長 佐々木健三さん

## 佐々木 平和でこそ発展する



もないことです。

紙 国民の健康や安全を後回しにして、アメリカのいうことを優先する小泉内閣の政治姿勢は非常に問題です。不当な圧力を排除し、自主的な農業、食料政策をすすめるなければなりません。

佐々木 その通りです。私たち農民連は五月に「食

糧主権宣言」を発表し、危機的事態にある日本と世界の食と農を転換させる運動を始めています。「食糧主権」は、自国の食料・農業政策を決定する国民主権の確立と、WTOや大国の横暴を各国が規制する国家主権の両方です。

日本では安全、安心の食料を生産し、それを求める

生産者と消費者の運動が続けられてきました。この運動が大きく広がる中で「食糧主権」をめざす運動も前進すると確信します。

### 豊かな水田と畑

紙 そうですね。私の活動地域には、すばらしい農村景観と伝統食があります。

先日北関東をまわってきましたが、水田と畑が豊かに広がり、関東地方のイメージが変わりました。小麦が実っていて、地元の小麦で打ったうどんが、とてもおいしかった。群馬県では、若い人の集まりに参加し「黙っていたら世の中は変わらない。力を合わせよう」という声を聞きうれ

し。

それらから農業には、なにより平和が必要です。私の父は、戦争に駆り出されて体を悪くし戦後、亡くなりました。憲法や教育基本法の改悪の動きが強まっていますが、平和と農業のため、阻止しなくてはなりません。

紙 農業と農村景観、食文化、地産地消、グリーンツーリズムの運動も平和でこそ発展します。



来年はいっせいで地方選挙と参院選挙の年です。この選挙に勝利して、憲法と平和、農業を守る運動を広げたいですね。

佐々木 紙さんの活動に期待しています。(おわり)

## 紙 自主的な政策の確立を

くなりました。

佐々木 私は四十七年前、学校を出て牛一頭から酪農を始めました。牛はかわいいですね。牛の世話をした後、コーヒーを入れたカップを手に牛たちをながめているときに、私の至福の時間です。